

令和6年6月16日

『地名学で読み解く邪馬台国と岡山』 西大寺・岡山学講座

西大寺緑花公園緑の図書室 黄蕨（きび）の会 丸谷憲二

1. はじめに

私が太伯地名に注目したのは21歳の時です。岡山には物凄い地名があると。それから56年、漸く纏まりました。郷土史研究は時間がかかります。

2. 比較検証

私は小学校で疑問点は図書館で調査するように指導されました。西大寺は違うようです。図書館を調査せずに太伯小学校で新説を発表しています。どちらの説が正しいのでしょうか。みんなで検証しましょう。

【参考文献】 私の集めた関連コピー厚は17cmです。その中から下記を報告します。

- ① 『泰伯説・神功皇后・卑弥呼』 国史大辞典 吉川弘文館 1999年
- ② 『太伯小学校創立100周年記念碑』 岡山市立太伯小学校 1996年
- ③ 『魏志倭人伝』 「邪馬台国研究事典1」 新人物往来社 昭和63年
- ④ 『日本書紀纂疏 日本書紀抄』 天理大学出版部 八木書店 昭和52年
- ⑤ 『御覧魏志 魏志倭国伝』 宮内庁書陵部蔵 「邪馬台国研究事典1」 新人物往来社 昭和63年
- ⑥ 『国宝 翰苑』 竹内理三 太宰府天満宮蔵 吉川弘文館 昭和52年
- ⑦ 「大来皇女」 新編日本古典文学全集4『日本書紀3』 小学館 1998年
- ⑧ 「大来皇女」 日本古典文学全集『万葉集(1)』 小学館 昭和46年
- ⑨ 『万葉仮名』 国史大辞典 吉川弘文館 平成4年

3. まとめ

3.1 太伯について

- ① 『魏志倭人伝』には、邪馬台国の場所は書かれていません。邪馬台国を太伯と記録しているのは、『日本書紀纂疏(さんそ)』、『魏志倭国伝』・『翰苑(かんえん)』のみです。
- ② 大伯(タイハク)地名は呉音で伝来し、大化改新(645年)以後は太伯(タイハク)と漢音で表記されました。古代地名は呉音と漢音の確認が必要です。
- ③ 江戸時代のタイハク論争回避策として、大伯に、オク(邑久)と間違ったルビを付け、大伯地名を消しました。仕掛人は水戸学の水戸光圀と池田光政と推定します。
- ④ 歴史学上は、大来(オク)木簡発見時に疑問を持つべきです。二つの地名を一つの地名と思い込みました。
- ⑤ 明治以降に出版された『日本書紀』『万葉集』の関連図書が全てルビを付けることにより誤読しています。

⑥ 邪馬台（ヤマタイ）国は「ヤマト」の誤読。『「大和」は「ダイワ」であり「やまと」とは読めない漢字。読まされている。（読んでもらいたいのだ。）』・・・矢吹説。

⑦ 黥面分布と太伯地名から、邪馬台国（ヤマト）を大和（ダイワ）に求める畿内説、九州説、その他の説も全て間違い、「考古学上の古代都市論」です。

⑧ 『太伯地名と入墨発見』、邪馬台国は吉備国に決定です。

2024年、東京・岡山歴史交流シンポジウム
第6回、定説への叛乱 in 岡山市・総社市

“卑弥呼の墓は岡山にあるのか？” —浦間茶臼山古墳を中心に—

6月8日 蔭涼寺（北区中央町）10:15～16:15 会費 2000円

『卑弥呼は岡山に住んでいた?』 丸谷憲二 13:05～13:45

春成秀爾 説（国立歴史民俗博物館名誉教授）

卑弥呼は弟と10歳前後で吉備から大和に連れてこられ、女王に共立された。
おそらく父も同行して後見役をつとめた。

丸谷憲二 説 『卑弥呼の弟が崇神天皇。太伯・長沼から大和へ』

1 瀬戸内市邑久町尾張は、崇神天皇妃の尾張大海媛の名前が地名に。

『先代旧事本紀』天孫本紀の崇神天皇妃が尾張大海媛（おわりのおおしあまひめ）。

皇女が豊鍬入姫命（とよすきいりひめ）です。

『長船鍛冶由緒書上』の崇神天皇は、崇神天皇が和気町に居られたから、鉾剣を献上できたとの記録です。崇神天皇社鎮座地地名が鞠負（ゆきえ）神社に。地名は字天皇。

2 卑弥呼・登与について

① 崇神天皇の皇女が豊鍬入姫命。豊鍬入姫命の「豊」から台与比定説。

② 隠された卑弥呼の記録。『日本書紀』は神功皇后を卑弥呼と同一人と。

③ 卑弥呼は崇神天皇の姉。卑弥呼の正式表記は「日の巫女」・天照大神の別名。

水野正好氏は「崇神天皇は、卑弥呼の後継女王である台与の摂政説」、

西川寿勝氏は「崇神天皇は卑弥呼の男弟」説。

④ 太伯・長沼・岩神は、卑弥呼と登与の生誕地。

⑤ 卑弥呼の邪馬台国と大和朝廷は、伊勢神宮齋宮で完全に繋がりました。

⑥ 卑弥呼の墓は吉備国内を探せです。